

音楽とは、横への感性なり

合唱団 ホームページアドレス
<https://www.wiengifu.org>

6月号

2022年6月1日

編集・発行
ウィーン岐阜合唱団

まち ごと おとたの
岐阜の街 ウィーンの如く 音楽し 作:音楽総監督 平光 保

「父の日にちなんで」

ウィーン岐阜合唱団指導者・ピアノ伴奏者 伊藤 応子

年齢のせいでしょうか。最近ふといろんなことを振り返ることが増えてきました。こうして今音楽を生業としておりますが、その道を歩み出すきっかけとなったのは、父の存在かなあと思うのです。ウィーン岐阜合唱団と関わらせていただくようになって思い出したのですが、父も歌が好きで若い時には市民合唱団に所属していたようです。今回はそんな父の話をさせていたいただきたいと思います。



父は戦中生まれで農家の6人兄弟の末っ子、奈良県の法隆寺の近所で育ちました。中学時代は陸上部で馴らし、400メートル走で県大会優勝したことが自慢でもあります。高校生の時、宣教師から英会話を教えてもらうという名目で初めて教会に足を踏み入れたことが、彼の人生にとっても大きな転機になりました。高校を卒業して一般の会社に就職をしたのですが、クリスチャンに回心し、さらに教職者を志し会社を辞して神学校に入学……。仏教徒の家に生まれた田舎の青年がキリスト教の牧師になるなんて、きっと一言では語れないドラマがあったと思います。その後神学校の同期だった母と結婚し、一教会を任されて牧師として就任したちょうどその頃にわたしが娘として誕生しました。

教会というと、欠かせないのが賛美歌です。父の教会はプロテスタントでしたが、教会の礼拝の中で少なくとも5曲くらいの賛美歌が歌われます。伴奏にはオルガンや電子オルガンが使われていたのですが、将来その演奏ができるようになるようにと、父は当時3歳のわたしにピアノを習わせ始めました。それと同時に新品のアップライトピアノを買ってしまったのです。もちろんローンを組んでの購入でしたが、薄給の牧師にとって、とてつもなく思い切った買い物だったと思うのです。無論父が弾けるわけでもなく、母も神学校時代に少しだけオルガンを習ったようですが、弾いているのをほとんど見たことがありません。子どもはそういう親の心意気を感じとるのでしょうか。わたしは練習が好き、とはお世辞にも言えない子どもでしたが、それでも毎日ピアノの弾き遊びを楽しんでいました。そして父の思惑

通りに10歳で教会の礼拝奏楽者としてデビュー。実家から離れて暮らす今も地元の教会で続けています。

父が合唱団に入ったのはヘンデルの「メサイア」が歌いたかったからのようです。パートはテノール。わたしはよく個人練習の伴奏に付き合いました。他にやることもあって面倒だな、と思う時もあったのですが、今となってはいい思い出です。父と娘がピアノを囲んで歌の練習……。傍から見るとなんだか微笑ましいですね。

他にも父は聖歌隊の指導をしたり、少年院の教誨師として関わっていた少年たちに合唱指導をしたりと、専門家でもないのによく引き受けてこなしていました。結婚式で司式を執り行う牧師として招かれ、その後の披露宴の余興では父が歌うことも定番でした。ある時は某会社主催のクリスマスディナーショーの出演を依頼され、クリスマスメッセージと歌という異色のステージを踏んだこともありました。そんな数々の父の音楽活動(?)に決まってわたしも父専属のピアニストとして付いていったものです。父と出かけると時々夫婦と勘違いされることがありました。まだ16,7歳の頃ですから「え、え・・・ちょっと待ってよ～」と言いたくなりますが、逆に父は若く見られて上機嫌だったことでしょう。



そんな父も傘寿を迎えます。「白髪は栄えの冠」と聖書のことばにありますが、白髪の出始めた30代のころからずっと隠し続けてます。もう白髪に十分見合う歳になったから染めなくてもいいんじゃない?と言われても長年の習慣はやめられないのか、父なりの身だしなみなのか、毛染めも手を抜くことなく、今も現役の牧師として変わらず役目を果たしています。もうすぐ「父の日」。久しぶりに父の顔を見に里帰りをしようかなと考えております。

～ウィーン岐阜合唱団との出会いに感謝して～

大垣支部 ソプラノ 栗田 慶子

思い起こせば、私とウィーン岐阜合唱団との出会いは中日新聞の小さな記事でした。学生時代、「オーケストラと一緒にモーツァルトのレクイエムを歌おう」という市民企画に参加し、「次は第九」と思っていたのに、卒業して地元に戻り、長い月日が経過。ふと見つけた記事を前に、迷いながらも事務局に電話し、ドキドキしながら南地区センターを訪れたのが2016年の1月でした。「第九を歌うには、発声練習が必要。」と言われて入団。夏の演奏会が初ステージ、12月には念願の第九にも挑戦できました。

入団後、まず印象に残ったのは、平光先生や和子先生、真由子先生の熱のこもった丁寧な御指導でした。演奏会が近づくと、先生方の熱意に引っ張られ、さまざまな声が混ざり溶けあい、一つにまとまっていく・・・そんな雰囲気を感じました。団員間の年代を超えた温かい雰囲気も心地よく、演奏会や合宿、紅葉ツアー、和子先生の女性コーラス和みへの参加などなど、あっという間の6年でした。

歌は楽しく、私にとって「気分転換」「ストレス発散」のために欠かせないものになって

います。現在、言語聴覚士として、さまざまな疾患を抱えた高齢の方々とのおつきあいが多く、リハビリにも歌の要素をよく用いますが、自分自身も健康を意識せざるを得ない年代になり、あらためて「合唱」には、健康維持に役立つ要素がたくさん含まれていることを再認識しています。

そもそも「歌う」ことには、体幹の安定、発声・発音や声帯コントロールなどが必要で、オーラルフレイル対策や誤嚥性肺炎予防に役立ちます。それに加え「合唱」では、周囲の声や音に耳を傾けながら、協調して歌うことが大切です。更に平光先生の音楽的な指揮を理解し、歌詞だけでなく細かい注意事項を覚え、これらすべてに気を配って歌うことが求められ、常に頭と体は“フル回転”。年齢を感じさせないウィーン岐阜合唱団員の生き活きとした表情や艶やかな歌声・・・この練習の積み重ねのおかげだと思っています。

先日、民族間の対立を抱える若者達が、音楽を通して気持ちを通い合わせる映画「クレッシェンド 音楽の懸け橋」を見て、涙が溢れました。憎しみや紛争は簡単に消えませんが、対話することの大切さを感じさせてくれました。最近の悲惨な映像やニュースに触れるたびに、なんらかの対話が、この悲劇的な状況を終わらせるきっかけになることを祈るばかりです。そして、国際情勢が不安定な今だからこそ、人類愛や平和への思いを込めて「やっぱり第九を歌いたい」そう思う今日このごろです。

先生のお言葉「岐阜の街ウィーンの如く音楽し」。昔、欧州旅行で夕食後にふらっと普段着で出かけ、室内コンサートを楽しむ機会がありました。ヨーロッパのように身近に音楽がある生活に憧れます。日々の生活に彩りを添えてくれる歌。ウィーン岐阜合唱団に出会えた事に感謝し、皆さまに支えて頂きながら今後も楽しんで参加させて頂きたいと思っています。

岐阜新聞真字塾

岐阜聖徳学園大学短期大学部専任講師

長川慶

「あれ？なんか似ているなあ」。野球と料理、編み物と書道など、全然違うことの中に共通しているものがある。そんな発見をしたことはありませんか？
実は、何の関係もなさそうなオペラとスポーツの中にも共通する部分があります。オペラって聞くと、大きな身体の人、重量感のある大きな声で歌っている。そんなイメージを抱く人が多いかもしれませんが、実はあの並外れた声を出すコツが、スポーツをするコツと共通しているのです。

オペラとスポーツに通じるもの

そのコツとは一体何か。それは「脱力」です。え！力を抜いたらあんな声で出ないでしょ？でも、真実は逆。むしろ力を入れたらあんな声は出ません。そもそも、力を入れて大きな声を出していたら、あっという間に声が枯れてしまいます。しっかり声を出しながら、どれだけ余分な力を抜けるか。オペラは一公演だいたい2時間くらいですが、長丁場で声を枯らさずに歌い続けるには、「脱力」こそが成功の鍵なのです。
ところで、この「脱力」はスポーツの世界でもよく耳にします。以前、プロ野球の投手が、速いストレートを投げるコツは、身体に力を入れず、投げる瞬間にだけ力を入れることだと話していました。また、ある

プロゴルファーは、ボールを速くに飛ばすためのアドバイスとして、30%くらいの力でスイングするのが重要だと話していました。そして「30%の力でスイングしてくださいと言うと、ふり幅も30%になってしまうので、ふり幅は100%、力は30%で打つのですよ」とも。このプロゴルファーのアドバイスは、声は100%出しながら、身体は30%の力で歌うというオペラ歌手の歌い方にそのままぴったり当てはまります。

そんなふうに関わりを見回してみると、「脱力」はスポーツ以外の動きにも共通しています。しなやかに踊るダンサーしかり、鮮やかな手捌きで食材を切る料理人しかり。結局、「脱力」は身体を使うことすべてに通じるのですね。

今、一生懸命勉強しているみなさんも、もし行き詰まりを感じた時は、ふと力を抜いてみてはどうでしょうか。さらに勉強がはかどったり、良い考えやアイデアが浮かんだりするかもしれませんよ。

6月～8月 練習予定

♪～ 準備が先、声は後 ～♪

平日（木・金曜）教室 （18:30 ～ 20:30）		日曜教室(14:00～16:00)
岐阜 長森コミュニティーセンター	大垣 大垣市南地区センター	各務原 ときめきホール
6月2日（木）	6月3日（金）	6月5日（日）
6月9日（木）	6月10日（金）	6月12日（日）
6月16日（木）	6月17日（金）	6月19日（日）
6月23日（木）	6月24日（金）	6月26日（日）
6月30日（木）	7月1日（金）	7月3日（日）
7月7日（木）	7月8日（金）	7月10日（日）
7月14日（木）	7月15日（金）	7月17日（日）
7月21日（木）	合同練習 長森コミュニティーセンター	
7月23日（土）～24日（日）	合宿 コージュ高鷲 郡上市高鷲町鷲見 48-1(詳細は後日)	
7月28日（木）	7月29日（金）	7月31日（日）
8月4日（木）	8月5日（金）	8月7日（日）
8月11日（木）	8月12日（金）	8月14日（日）
8月18日（木）	8月19日（金）	8月21日（日）
8月25日（木） 北部コミセン	8月26日（金）	8月28日（日）

練習時間・練習場所・体制等は、変更になることもありますので、ご注意・ご了承ください
練習時間には余裕をもって集合しましょう



川浪進先生【京都在住、整形外科医（整形画家さん）】の水彩画展
（5/3～5/8）に行ってきました。
（川浪先生は平光先生の大切な知人のお一人です）
先生の捉えられる美しい風景、静物や人物画、そして透明感
のある温かく美しい色彩に魅せられて、いつまでも佇んで
いたい思いでした。 （田中・山田・中根・高橋）



広報より 皆様からのご意見・ご投稿をお待しております。ご投稿・ご質問等は下記までお問い合わせ下さい。

坂井 俊郎 mail : sakai_gifu@yahoo.co.jp 090-7041-9133
高橋なお子 mail : wien.chorus2021@gmail.com 090-9933-0374